

2018年度 「応用演習」 ミニシラバス (理解学科)

担当者名	生田 祐子
授業のテーマ	English Education for Global Peace: 国際理解と平和を考える英語教育とは？
授業の内容 (200字程度)	ユネスコ憲章の前文に「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりで築かなければならない」とあり、この「人の心の中に平和の砦」を築くために外国語教育と国際理解教育との連携が、重要な役割を果たします。この授業では、今、世界で起こっている大事な問題を自分事として捉え、国際社会や地域の問題を解決に導くコミュニケーターを育てるために、英語教育を通して何ができるかを考えます。実際に平易な英語で国際問題を話す訓練をするために、模擬国連を体験します。希望者は6月に京都で行われる模擬国連大会にも参加できます。
サブテキストなど	みなさんの英語習熟度に合わせ、タイムリーなトピックと教材を初回に決めます。リスニング力と「英語字幕」を読みこなすために国際紛争に関する映画も使用する予定です。
お勧め対象	教育分野（英語・日本語教師）や国連などの国際機関、特に国際教育協力の分野に関心があり、英語が好きな学生。大学英語模擬国連大会や国連研修に参加を願う学生。

担当者名	林 薫
授業のテーマ	国際情勢や国際関係を英語で学ぶ。
授業の内容 (200字程度)	難民、テロ、過激派、環境と持続性など国際関係は大きな問題を抱えながら急速に変化しています。世界の人々と、これらの問題について英語で情報を得て、英語で話し合うことができることは「世界市民」としてきわめて重要なことです。授業では、英語文献を読むことにより1年生の国際理解論で学んだ国際関係のより深い理解するとともに、普通に使われている英語でディスカッションができること、その際のマナー（political correctness: 言っていないこといけないこと）を身につけることなども目指します。
サブテキストなど	教材は Economist、Foreign Policy, Foreign Affairs などの世界の中で読まれているジャーナルや雑誌に掲載された論文やインターネットに掲載されたニュース記事が中心ですが、テーマは学生が主体的に選びます。2016年度は「幸福とは何か」をテーマにしました。BBCのニュースなども活用します。
お勧め対象	英語で仕事、ボランティア、その他社会的活動にかかわることを目指している学生。広く国際情勢、国際関係に興味を持っている学生。

担当者名	本浜 秀彦
授業のテーマ	小説・映画・ミュージアムで学ぶ歴史都市（Kyoto・Kamakura・Edo/Tokyo）の文化——国際日本研究への招待——
授業の内容 (200字程度)	海外の研究者が日本について研究する、いわゆる「日本研究」の成果を“逆輸入”し、それを日本における学問的な文脈で再検討する作業をふまえながら、現在の日本の大学生が必要とする日本の歴史や文化を学びます。具体的には、京都、鎌倉、東京/江戸を描いた・語ったメディアを分析、検証し、歴史都市の文化に関する知識や理解を深める一方、三都に向かうその視線を、受講生それぞれの地元の歴史・文化への関心とも交差させます。
サブテキストなど	テキストは特に定めず、プリントを配布します。ただし、「江戸東京博物館（東京・墨田区）および浅草散策」か「鎌倉・江ノ島めぐり」（あるいはその両方）のフィールドワークを、学外授業として適当な土曜日に振り替えて実施する予定なので、心してください。
お勧め対象	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歴史や文化に関心のある学生 ・「日本」を英語で発信したいと考えている学生 ・小説、映画などのメディアに関心のある学生 ・英語をしっかり勉強したいという意志・意欲のある学生 （英検2級程度はないと困るような英文をいっぱい読みます！）

担当者名	山田 修嗣
授業のテーマ	「当たり前」とは何か？ ——「当たり前」を考え、語りあい、理解する——
授業の内容 (200字程度)	人はなぜ、「そんな当たり前」と言えるのでしょうか。この現象を理解して、社会への関心を深めるため、参加者どうしで学びあいます。「当たり前」を把握するには、さまざまな見解を提示し、検討する必要があります。だから、1人では難しい作業で、演習のテーマにむいています。発見して、整理する（言い換える）作業を楽しみましょう。参加者と相談して進める演習にします。あれこれ気になることを提案して下さい。
サブテキストなど	講義時に説明・紹介します
お勧め対象	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのできごとや社会に「なぜ？」と疑問をもつ人 ・他者との討論を通じた「わかる！」を楽しみたい人 ・概念、理念、理論といった言葉に魅力を感じる人 ・文献やデータを集め、読み進めることに興味をもつ人

担当者名	渡邊 暁子
授業のテーマ	SDGs の理解を深める開発教育プログラムの実践と教材作成
授業の内容 (200字程度)	<p>持続可能な開発目標（SDGs）は世界共通のゴールとして、2030年までに達成が求められています。それには、NGOや企業だけでなく、市民一人ひとりが自分の問題として捉え、行動していくことが必要です。</p> <p>本演習の前半では、履修者複数名がファシリテーターの役目を務めながら既存の開発教育教材をワークショップの形式で実践していきます。後半では、履修者はいくつかのグループに分かれ、開発教育、市民教育、人権教育としてSDGsの理解を深めるためのオリジナルな教材の作成を試みます。</p> <p>これらの作業を通じて、履修者はファシリテートする力だけでなく、学習者として資料収集、検討、分析、考察、語る力を培っていきます。</p>
サブテキストなど	授業の中で指示します。
お勧め対象	国際協力、地域研究、社会の仕組みなどに関心のある学生 周囲と協力して物事を進めていく意思のある学生

担当者名	A先生
授業のテーマ	
授業の内容 (200字程度)	A先生の詳細は、近日中に教育支援課HPに公開します。
サブテキストなど	
お勧め対象	